

＜秋まき小麦の栽培＞

1 追肥について

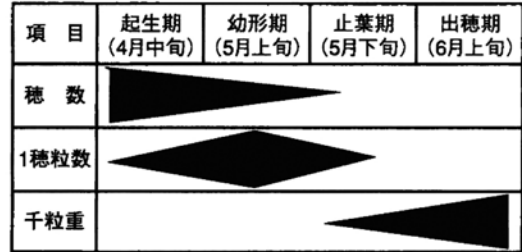
幼穂形成期、止葉期の目標茎数時の窒素施肥量は下表のとおりです。

ただし、倒伏の危険がある茎数の場合は追肥を控えましょう。

茎数が倒伏の危険を大きく超える時は、次の項目にある倒伏軽減剤の使用を検討しましょう。

時期	幼穂形成期	止葉期
窒素施肥量(kg/10a)	4	4
目標茎数(本/m <sup>2</sup> )	1, 500	1, 000
倒伏の危険(本/m <sup>2</sup> )	1, 700	1, 200

図1 窒素分施肥時期と効果



2 倒伏軽減剤について

倒伏の危険がある場合は早めに対応しましょう。幼穂形成期から散布が可能です。

薬剤	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
サイコセルPRO	幼穂形成期	150~200mL	1	水 100L
	出穂前 20~10 日	200~300mL	1	水 100L、草丈 40~60cm
エスレル10	止葉期~出穂始期	200~333mL	1	水 100L
カルタイムフロアブル	止葉期~出穂始期	150~200mL	1	水 100L

3 雑草と除草剤について

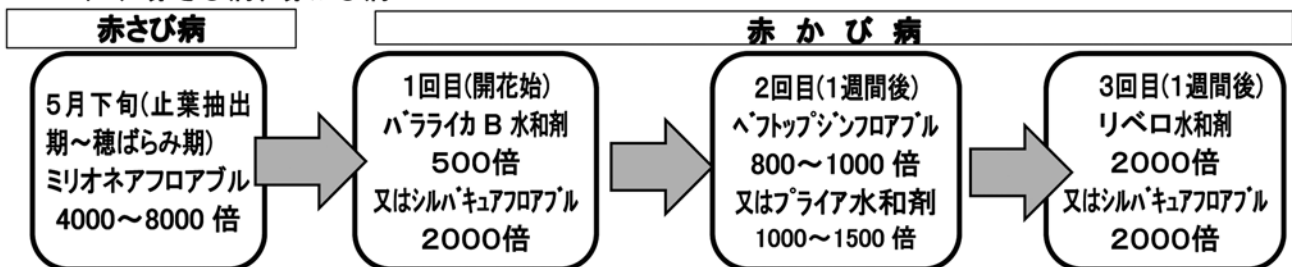
除草剤	主な対象雑草	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
エコパートフロアブル	シロサ <sup>※</sup> 、タテ <sup>※</sup> 類、ハコバ <sup>※</sup>	雑草発生始期 (止葉抽出前まで) (収穫 45 日前まで)	50~75 mL	2	展着剤は加用しない、薬害の恐れがあるので、小麦止葉抽出前までに散布する。
バサグラン液剤	タテ <sup>※</sup> 類、ハコバ <sup>※</sup> 、ナスナ、スカシタゴボウ等	麦の幼穂形成期 (春生えのみ) (収穫 45 日前まで)	100~150 mL	1	散布後の降雨は効果が劣るので、好天の続く見込みの時期に散布する。
MCPソーダ塩	シロサ <sup>※</sup> 、ハコバ <sup>※</sup> 、ナスナ、スカシタゴボウ等	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	200~300 g	1	日中の気温が 20℃以上の好天日を選び散布する。
ハーモニー75DF <sup>注)</sup>	シロサ <sup>※</sup> 、タテ <sup>※</sup> 類、ハコバ <sup>※</sup> 等 <sup>注)</sup>	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	7.5~10 g	1	イヌカミツレに有効。使用後は必ず散布器具を専用の洗浄剤でよく洗浄する。

注) ハーモニーのギンギン類は 10a 当たり使用量 3~5g。

4 病虫害防除について

(1) 眼紋病 5月上旬(幼穂形成期) カンタスドライフロアブル 1500倍  
ファンタジスタ顆粒水和剤 2000倍

(2) 赤さび病、赤かび病



(3) アブラムシ類 6月中旬~7月中旬 エルサン乳剤 1000倍  
ペイオフME液剤 2000倍

※農薬の使用前には、必ずラベルを確認し、正しく使用しましょう。